

マクロ経済学Ⅱ

科目ナンバリング ECT-204
選択必修 2単位

田中 賢治

1. 授業の概要(ねらい)

マクロ経済学は現実経済を分析するための学問です。今の日本経済が抱える問題は、マクロ経済学を用いることで分析することが可能です。本講義は入門マクロ経済学を学んだ学生を対象としており、現実経済の分析ツールであるマクロ経済学の基本概念の理解を一層深めるとともに、現実のデータを見ながら、日本経済が抱える問題をマクロ経済学の観点から学ぶことを目的としています。マクロ経済学は、現実の経済現象を理解し、経済問題を解決するための政策判断に不可欠です。日々、経済に関するニュースが新聞紙上をにぎわしています。これらの情報を、マクロ経済学を用いて自分なりに考え理解できるようにすることは、社会人になってから大いに役立つことでしょう。

2. 授業の到達目標

- (1) マクロ経済学の基本概念についての理解を深め、マクロ経済にかかわるニュースを正確に理解し、説明できるようになる。
- (2) マクロ経済統計の定義や作り方を把握することで、それらのデータが意味することを理解し、正確に読み取る力を身につける。
- (3) 日本経済の抱える諸問題について理解するとともに、それらに対する政府や中央銀行の経済政策の影響について分析する力を身につける。

3. 成績評価の方法および基準

授業内小テスト(不定期)40%と期末試験60%で評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

福田慎一・照山博司 『マクロ経済学・入門(第5版)』 有斐閣,2016年

参考文献

福田慎一・照山博司 『演習式マクロ経済学・入門(補訂版)』 有斐閣,2013年

グレゴリー・マンキュー 『マンキュー経済学Ⅱマクロ編(第4版)』 東洋経済新報社,2019年

5. 準備学習の内容

- (1) 講義は基本的に教科書に対応した形で進めます。受講前に対象箇所を熟読し、問題意識をもって受講すること。教科書を何度も読み返すことで理解が深まります。受講後にも、教科書を繰り返し読むことで理解度を高めること。
- (2) 講義中に多くのマクロ経済統計を扱います。講義後にはWebサイトで統計の原典にあたることで、統計に慣れ親しむことが望めます。

6. その他履修上の注意事項

- (1) マクロ経済学を体系的に理解するためには、「マクロ経済学Ⅰ」とあわせて「マクロ経済学Ⅱ」の履修が必要です。連続履修を推奨します。
- (2) マクロ経済学は現実経済を分析するためのツールです。毎日、新聞の経済記事に目を通し、現実経済への感度を磨くこと。
- (3) 講義中の私語などの迷惑行為は厳禁です。

7. 授業内容

- | | |
|--------|--|
| 【第1回】 | ガイダンス
授業案内 |
| 【第2回】 | 経済政策はなぜ必要か(1)
経済政策の有効性について検討します |
| 【第3回】 | 経済政策はなぜ必要か(2)
デフレ脱却のために行われた非伝統的金融政策について学びます |
| 【第4回】 | 財政赤字と国債(1)
財政政策と国債の役割について学びます |
| 【第5回】 | 財政赤字と国債(2)
国債の中立命題と日本の累積債務問題について学びます |
| 【第6回】 | インフレとデフレ(1)
インフレとデフレの原因について考察します |
| 【第7回】 | インフレとデフレ(2)
インフレとデフレのコストについて考察します |
| 【第8回】 | 労働市場(1)
失業とフィリップス曲線について学びます |
| 【第9回】 | 労働市場(2)
日本の労働市場の特徴について学びます |
| 【第10回】 | 経済成長理論(1)
ハッロッド＝ドーマー理論とソロー・モデルについて学びます |
| 【第11回】 | 経済成長理論(2)
内生的成長理論、成長と所得分配について考察します |
| 【第12回】 | オープン・マクロ経済(1)
国際収支と為替レートの決まり方について学びます |
| 【第13回】 | オープン・マクロ経済(2)
マンデル・フレミング・モデルについて学びます |
| 【第14回】 | 日本経済の現状と課題(オンライン授業)
マクロ経済学の知識を用いて日本経済の課題について考察します |
| 【第15回】 | 授業のまとめと総復習 |